

第4学年1組 国語科学習指導案

日 時：令和5年11月9日（木）5校時
場 所：浜田市立松原小学校 4年1組教室
指導者：
支援者：

- 1 単元名 暮らしの中の「和」と「洋」について調べよう
- 2 教材名 「暮らしの中の和と洋」 東京書籍4年下
- 3 学 級 松原小学校 4年1組 16名
- 4 単元づくりの構想

本単元で付けたい力	
① 比較の仕方を意識して、読み取ったことを基に調べたことをまとめる力。	
<div style="text-align: center; background-color: #f9cb9c; font-weight: bold; margin-bottom: 5px;">情報活用能力指導の観点・系統性</div> <ul style="list-style-type: none"> ○情報の収集 e 目的に応じて、複数の資料の中から必要な情報を自分で集める ○情報の整理 k ・情報カードに書く ・引用する ・要約する ○情報と情報との関係 l 二つ以上の情報から目的に合ったものを選ぶ 	<div style="text-align: center; background-color: #f9cb9c; font-weight: bold; margin-bottom: 5px;">教材の特質</div> <p>本教材は、暮らしの中の和と洋の違いや、それぞれの良さを対比して、わかりやすく説明したものである。「始め、中、終わり」の文章構成となっており、児童にとって全体の構成が分かりやすいものになっている。また、いくつかの観点に沿って違いを比較したり、具体例が提示されていたりもするので、まとめるときに必要な情報を抜き出しやすい。本単元では、身の回りの和と洋について、どのように比較されているかを読み取り、必要な部分を引用したり要約したりすることができる力を育てていきたいと考える。</p>
<div style="text-align: center; background-color: #f9cb9c; font-weight: bold; margin-bottom: 5px;">本単元に関わる子どもの実態</div> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">省略</p>	

5 単元の評価規準

- (1) 比較や分類の仕方を理解し使っている。【知識及び技能】(2)イ
- (2) 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している
【思考力、判断力、表現力等】C(1)ウ
- (3) これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しをもって粘り強く目的を意識して文章を要約し、紹介文を書こうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

6 単元の指導計画（全12時間扱い）

- | | |
|-----|--------------------------|
| 第一次 | 学習のねらいや進め方を捉え、学習の見通しをもつ。 |
| 第二次 | 教科書の教材を読み、文章構成などを理解する。 |

理解したことを使って、「和」と「洋」についてまとめたり、紹介文を書いたりする。

第三次 紹介文を友だちに伝え合う。

7 本時の指導（9／12時間目）

（1）本時のねらい

自分が選んだ「和と洋」について本や資料から調べ、必要な情報を分かりやすくまとめることができる。

（2）本時の展開

学習活動	・教師の支援	【評 価】
1. 本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてと学習の進め方を確認する。 ・次時の見通しが持てるように、本時でまとめたものを基にして、紹介文を書くことを伝える。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 集めた情報を使って、「和」と「洋」について整理しよう。 </div>		
2. 自分の「和」と「洋」の文章を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「くらしの中の和と洋」で学んだまとめるときのポイントを確認し、まとめるときの手助けになるようにする。 ・ワークシートを活用し、友だちに紹介しやすいように図式化することを伝える。 	
3. ワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・並行読書で集めてきた情報を使ってまとめるように指示する。 ・比べる観点を選んだり、良さや違いを明確にしたりしながら書くように伝える。 ・「まず」「次に」「これに対して」などのような、書く時のキーワードになる言葉を伝えるようにする。 ・書きにくい児童には、より易しい本を用意しておくことで、読み取りやすくなるようにする。 	
4. ワークシートを基に友だちと紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアの友だち→グループの友だちというように、紹介する人数を増やしていく。 <p>【自分の選んだ和と洋について分かりやすくまとめようとしている。】（発表の様子・ワークシート）</p>	
5. 伝えた内容を文章に書く。		
6. 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、本時の学びを実感させたり、次時の課題を確認したりして学習のまとめとする。 	

8 本時の評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
・選んだ和と洋について、観点に沿って比べ、良さや違いに気を付けながら分かりやすくまとめたり、伝えたりしている。	・選んだ和と洋について、良さや違いに気を付けながらまとめることができる。	・集めた情報を基に教師と一緒に違いをまとめられるようにする。

9 考察（成果・課題）

本の選定

本単元の言語活動では「和と洋ブック」を作ること設定しており、児童がその活動に取り組みやすくなるような本を国語の教科書に記載されているものから選んだ。「和と洋ブック」とは、選んだ本の中から和と洋を観点別に違いや良いところを見つけ、まとめたものである。しかし、国語の教科書に記載されていた本では、児童が違いや良いところを見つけることが難しかった。そこで、児童が選んだものの特徴がより分かりやすく書かれている本や絵本も用意することで、情報が集めやすくなった。

情報の収集

本単元では、集めた情報を付箋に書いて、ワークシートに張るようにした。本から選んだ和と洋の特徴や歴史、使い方などを書き出し、図式化することができるように、とにかくたくさん集めるようにした。例えば花嫁衣裳の和と洋を選んだ児童は、それぞれの着方や、色の特徴、着る場所などを調べて書いていた。その後、集めた情報を違うところとそれぞれの良いところに分類し、付箋を張り替えた。これは図式化する際の良い手立てとなった。また、本からだけでなく、今回は保護者や教師からインタビューで情報を集めても良いこととした。そのおかげで、たくさんの情報が集まっただけでなく、実際に体験した人からの生の声は、本のどこにもものっていないので、進んで相手に伝えたいという意欲向上にも繋がったように感じた。

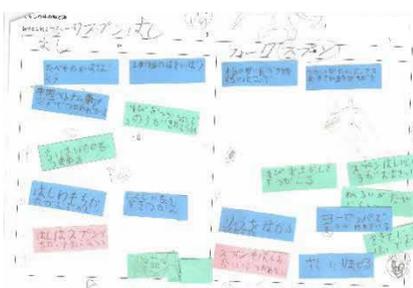
要約学習の活用

本単元で、週に一度の「ようやくタイム」で行っている活動を活用したことで得られた成果がいくつかあった。まず、文章からキーワードを抜き出す力が付いたように感じる。本を丸写しするのではなく、自分が説明したい部分の中から、それがよく分かる単語やキーワードだけを見極めて付箋に書く児童がたくさんいた。これは、要約学習を繰り返し行っている成果だと考える。

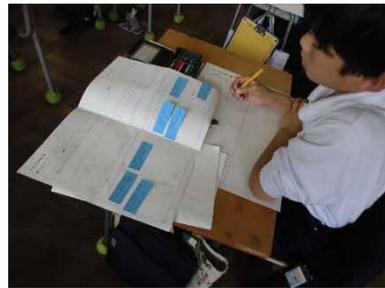
次に、集めたたくさんの情報を説明しやすいように、並び替え、図式化することができたところだ。情報を繋がりや、話す順序に気を付けて書いたり、矢印や吹き出しも使ったりしながら、説明しやすいように自分なりに工夫して図式化していた。その後、図式を見せながら、自分の言葉で説明する様子もあり、要約学習を生かした活動をする事ができた。また、①情報からキーワードを抜き出す ②図式化する ③図式を使って説明する

この流れを使うことで、調べたことを文章に記すという単元のまとめにもスムーズに移ることができた。繰り返し説明すると、付け足し・改善でき、自分の考えがまとまると感じた。これらのことから、「ようやくタイム」で行っている活動は、本単元の理解を深めるために有効であったと考える。

情報を集める



図式化する



繰り返し伝える

